

運動部活動のよりよい活動形態に関する研究 ～中学生年代のサッカー競技を対象として～

A Study of Desirable Activity forms of Soccer Club in Junior high school.

1K10C411-0 三田 貴文

指導教員 主査 深見 英一郎 先生

副査 作野 誠一先生

【序 章】

＜研究の動機＞

我が国では、古くから学校における運動部活動の重要性を認識し、固有のスポーツ文化が育まれてきた。筆者自身も、中学・高校の6年間、30人以上の部員が所属する学校のサッカー部で切磋琢磨しながら活動してきた。しかし、近年では中学生年代のサッカー競技ではクラブチームの台頭が目立つ一方で、部活動では部員が集まらず活動できない状態になり部活動が衰退する危機を迎えている。そこで部活動の衰退を防ぎ、選手を取り込む魅力ある部活動を考える必要があると考え、本研究のテーマを設定した。

＜研究の目的＞

運動部活動とクラブチームにおける選手・指導者のメリットとデメリットについて検討し、それを基にした運動部活動のよりよい活動形態について模索することを本研究の目的とする。

＜研究の方法＞

本研究は、部活動やクラブチームに関する文献にあたるとともに、部活動とクラブチームの選手・指導者を対象に行ったアンケート調査の結果を基に研究を進めていく。

【第1章】 部活動とクラブチームのメリットとデメリット

第1章では、部活動とクラブチームの設立背景から、その性格を前者では生涯スポーツ、後者では競技スポーツと意義付け、指摘した双方の性格を踏まえ、一般的に考えられる部活動とクラブチームの選手・指導者のメリットとデメリットについてまとめた。

【第2章】 アンケート調査の概要とその結果

第2章では、2013年10月～11月にかけて、G県O市の7つ中学校とO市近辺の2つのクラブチームの選手計202名、指導者計17名を対象に行ったアンケート調査の概要と結果をまとめた。アンケート調査用紙は文部科学省が1996年に行った「中学生・高校生のスポーツ活動に関する調査」で使用された内容を参考に、選手に対しては「活動するチームを選択した理由」、「活動を行う目的・意義」、「活動

の頻度・程度」、「活動を行う上での悩み・問題点」、指導者に対しては「指導を行う理由」、「指導の目的・意義」、「指導を行う資格能力」、「指導を行う上での悩み・問題点」という観点から質問項目を抽出し、加筆修正を行い選択・記入方式のアンケート用紙を作成した。

【第3章】 運動部活動のよりよい活動形態の模索

第3章では、アンケート調査の結果から、再度、部活動とクラブチームのメリットとデメリットについて考察を行い、部活動の選手では「チームの所属に制限がないこと」、「人間的な成長」、「余暇時間」をメリットとして挙げ、デメリットとして「指導者の問題」を挙げた。クラブチームの選手では、「専門的指導者による集中指導」とそれによる「技術の向上」をメリットとして挙げ、デメリットとして「余暇時間が少ない」、「活動費用が多い」、「選手同士の人間関係」を挙げた。それらを活用・改善した運動部活動のよりよい活動形態として「部活動のクラブ化と中学校の総合型地域スポーツクラブ化」を提案した。

【結 章】

運動部活動のよりよい活動形態として、部活動の活動に専門的指導者による集中的な指導を行うクラブとしての活動を加えることで、部活動とクラブチームの要素を含むことが可能となる「部活動のクラブ化」を提案した。さらに、文部科学省が設置を奨励する総合型地域スポーツクラブと地域の中心となる中学校との関連を図り、中学校の運動部活動を中心とした総合型地域スポーツクラブをつくる、「中学校の総合型地域スポーツクラブ化」を提案し、本研究のまとめとした。

今後の課題として、本研究では中学校を総合型クラブ化することで地域人材の指導者を活かした活動を行うことを提案したが、総合型クラブの普及が目指されていることから外部指導者の需要が増加すると考えられ、指導者の提供を円滑化するために、指導者バンクやスポーツボランティアを認知・普及させていく必要がある。